

STAGE+を楽しむ(135)(HP 収載)  
—「ビロード革命」記念コンサート—

1. 始めに

前報(134)に引き続き、STAGE+の「ビロード革命」記念コンサートの試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、「ビロード革命」記念コンサートの演奏を選びました。

チェコ・フィルによる「ビロード革命」記念コンサート、パッパノーとヤンセンを迎えて

ルドルフィヌム〜ドヴォルザーク・ホール

収録日: 2023年11月17日

旧チェコスロバキアの民主化「ビロード革命」を記念する、国民の祝日に開催されるチェコ・フィル伝統のコンサートをドヴォルザーク・ホールからお届けします。今年、オペラとコンサートの両面で活躍し60代の円熟期を迎えたアントニオ・パッパノーを指揮者に迎え、ブラームスが混声四部合唱とオーケストラのために書いた《哀悼の歌(悲歌)》に始まり、ドヴォルザークがブラームスのハンガリー舞曲集にインスパイアされて作曲したスラヴ舞曲集で終わるプログラム。オランダが誇る傑出したヴァイオリニスト、ジャニーヌ・ヤンセンによるメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲も目玉です。

ソリスト:

ジャニーヌ・ヤンセン (ヴァイオリン)

演奏:

プラハ・フィルハーモニー合唱団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

アントニオ・パッパノー

曲目:

ヨハネス・ブラームス 哀歌 op. 82

プラハ・フィルハーモニー合唱団(合唱)

フェリックス・メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲ホ短調 op. 64

ジャニーヌ・ヤンセン(ヴァイオリン)

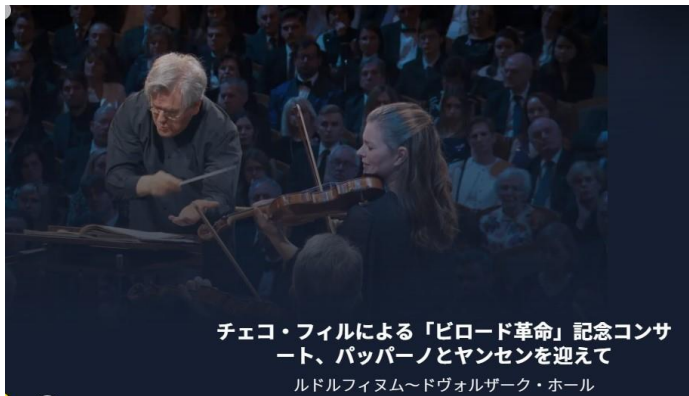
ヨハン・セバスティアン・バッハ

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番ハ長調 BWV 1005 より

## 第3楽章：Largo

ジャンニーヌ・ヤンセン(ヴァイオリン)

アントニン・ドヴォルザーク スラヴ舞曲集 op. 72



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーター に対するCDクリーナーの処理を行っています。

ブラームスの哀歌は、初めて聴く曲で、プラハ・フィルハーモニー合唱団による合唱が入って、しみじみと歌い上げていきます。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はお馴染みの曲で、ヤンセンの艶のあるヴァイオリンがロマンチズムを感じさせます。

アンコール曲の無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第3番の Largo は、アンコールによく弾かれるもので、ヤンセンがしみじみと演奏していました。

ドヴォルザークのスラヴ舞曲集は、これもよく聴く機会のある曲で、活発な舞曲と中欧の牧歌的な風景を思わせる曲が交互に演奏されますが、それらの表情の切り替えが捉えられています。



#### 4. まとめ

LAN アクライザーと Crstal EpL や CD クリーナーの処理効果により、それぞれの演奏曲目の雰囲気をよく現わしてくれました。

以上